



平成20年5月23日

各位

会社名 ゼネラルパッカー株式会社
代表者名 代表取締役社長 梅森 輝信
(JASDAQ・コード6267)
問い合わせ先 取締役管理部長 小関 幸太郎
電話番号 0568(23)3111(代表)

平成20年7月期(非連結)業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年7月期(平成19年8月1日~平成20年7月31日)の業績予想について、平成20年3月6日付当社「平成20年7月期中間決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記の通り修正いたします。

記

1. 平成20年7月期通期業績予想の修正(平成19年8月1日~平成20年7月31日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A) (平成20年3月6日発表)	4,200	224	230	127
今回修正予想(B)	3,500	115	125	48
増減額(B-A)	△700	△109	△105	△79
増減率(%)	△16.7	△48.7	△45.7	△62.2
(ご参考) 前期実績(平成19年7月期)	4,074	211	213	118

2. 修正理由

包装機械業界におきましては、原油価格高騰による包装材料のコスト増加や食品原材料の高騰などを背景に、需要業界の設備投資需要は、依然として低調のまま推移しております。また、平成20年に入り、食品業界各社においては、中国製餃子問題の影響により原材料の調達先の見直しを迫られる企業も多数発生するとともに、原材料高の影響による収益悪化も顕著になってきたことから、設備投資計画の見直しの傾向が強くなりました。

このような環境の中、当社の売上高につきましては、中間期は前年同期比で減収になったものの、下半期には前期に低調であった大型案件及び高価格機種種の需要が大手企業の合理化投資を中心に一部回復の期待できる状況であったことや、新商品の印字検査装置の拡販効果も見込まれたことから、下半期は機械売上高を2,145百万円、保守消耗部品その他の売上高で540百万円、合わせて2,685百万円(通期では4,200百万円)の売上高を計画しておりました。

また、下半期の受注高におきましても、中間期末の機械受注残高が850百万円であったことから、機械売上高計画との差額1,295百万円を受注することを計画しておりました。この計画値は容易ではないものの、業績予想時に、当期売上予定可能な見込み案件が1,800百万円以上あったことから、下半期に受注して売上を計上することは可能であると予想しておりました。また、保守消耗部品その他につきましては、新商品の印字検査装置の販売効果により受注の増加を予想しておりました。

しかしながら、当社の主力顧客であるドライ物食品を製造する食品メーカーにおきましては、上記で記載しました市場環境を背景に、小麦・水産物等の原材料高と中国製原材料による影響を強く受けるメーカーが続出し、設備投資計画の見直し(金額・規模の縮小、時期の延期、未実施等)の決定が相次いで発生いたしました。また、包装材料のコスト増加や原材料高を背景に、当社が主力とする高性能・高価格機種需要が、他社の低価格機種に一部流れる傾向も強まり、特に中小型案件の需要は、前年同期よりも予想し得ない大幅な減少となりました。

業績予想時には、当期売上予定可能な見込み案件が1,800百万円以上ありましたが、上記の要因で、実質的には1,000百万円以上の見込み違いが発生したことから、新規の案件はあるものの、見込み案件が大幅に減少する状況となりました。この結果、下半期の機械受注高計画1,295百万円(当期売上予定分)に対して、第3四半期の機械受注高実績が500百万円程度(この他に翌期売上予定分が200百万円程度有り)と大幅に低迷したことから、第4四半期でカバーすることが困難となり、700百万円程度の差異が発生する見通しとなりました。

下半期の売上高につきましては、保守消耗部品その他の売上高は、ほぼ計画通りに推移するものの、機械売上高につきましては、機械受注高の低迷により、計画を大幅に下回る見通しとなりました。この結果、通期の売上高につきましては、前期実績を500百万円以上下回るとともに、前回発表予想を700百万円下回る見通しとなりました。

このため、通期の売上高予想を3,500百万円に修正いたします。

利益面につきましては、売上総利益率は計画よりも上回るものの、通期売上高が減少することから、売上総利益が160百万円程度減少する見通しとなりました。一方で販売費及び一般管理費につきましては、売上高減少に伴いアフター費が減少するとともに、経費の抑制に努めたことから、計画よりも50百万円程度削減できる見通しとなりました。これらの結果、前回発表予想を営業利益で109百万円、経常利益で105百万円下回る見通しとなりました。

当期純利益につきましては、経常利益が減少したことと、需要動向の減退に伴い棚卸資産評価損の発生が見込まれることから、前回予想を79百万円下回る見通しとなりました。

このため、通期の営業利益予想を115百万円、経常利益予想を125百万円、当期純利益予想を48百万円に修正いたします。

なお、平成 20 年 7 月期の期末配当につきましては、平成 20 年 3 月 6 日付当社「平成 20 年 7 月期中間決算短信（非連結）」にて発表しましたとおり、期末配当金を 1 株当たり 3 円 50 銭にて行う予定であります。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上